

ひたちなか市第3期観光振興計画

—— 令和8年度～令和15年度（2026年～2033年） ——

概要版



花、海、食
人がつなぐ非日常と感動のまち
ひたちなか

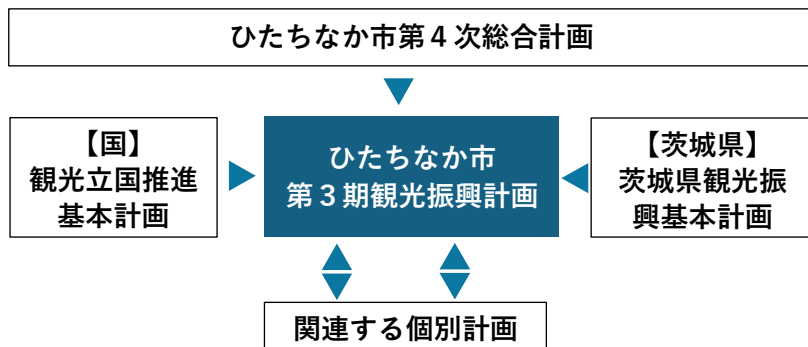
令和8年3月
ひたちなか市経済環境部観光振興課

計画策定の目的

ひたちなか市は、美しい花々や海、豊富な食といった多くの魅力を有し、県内観光入込客数1位を記録するなど、今や茨城県を代表する観光地となっています。ひたちなか市第3期観光振興計画では、観光入込客数の順調な増加という「量」の成果を踏まえ、今後の観光の「質」を高めていくために必要な考え方や取組を整理し、経済効果、来訪者満足度、まちづくりの観点から、「質の高い観光」の実現を目的としています。

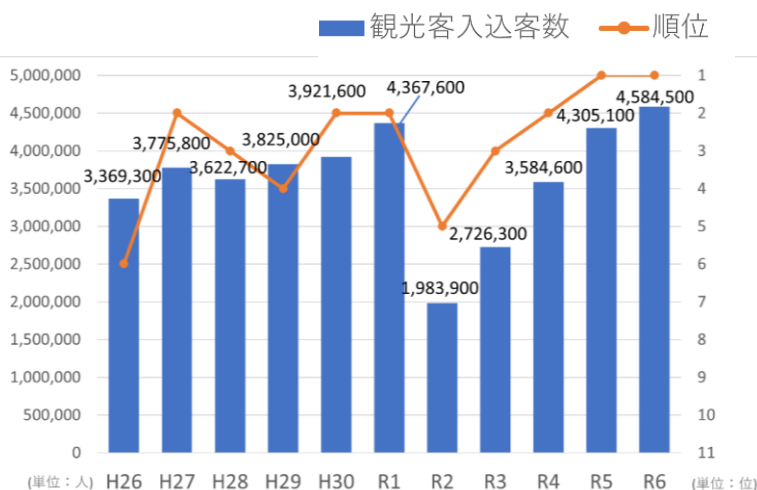
計画の位置づけ

この計画は、ひたちなか市総合計画の観光分野における個別計画として位置づけられます。



観光の現状と課題

ひたちなか市の観光入込客数は、令和5年に430万人、令和6年には458万人となり、2年連続で県内1位を記録しています。こうした近年の現状と、令和6年度に実施した調査結果から、本市の観光における3つの課題が浮き彫りとなりました。



令和6年度に実施した調査等

観光実態調査（現地アンケート調査）/インターネット調査/市民アンケート調査/GPS調査/観光関係者ヒアリング/事業推進懇談会

課題

1 観光による地域経済効果拡大の必要性

観光でまちを元気にするためには、人を呼び込むだけでなく、観光客1人1人の消費を拡大させ、地域全体に循環させることが大切です。ひたちなか市は、観光客数を順調に伸ばしている一方で、滞在時間が短いことや立ち寄りスポット数が少ないことで地域経済への波及が限定的になっています。

- 市内での1人当たりの消費額（令和6年度現地アンケート調査より・回答973人）

1 飲食代	2 買い物代	3 宿泊費	4 合計
2,335円	3,443円	1,867円	7,644円

- ひたちなか市での滞在時間（令和6年度現地アンケート調査より・回答973人）

1時間以内	1～2時間	2～4時間	1日（日帰り）	泊まり
	3.2%	20.4%	45.7%	20.2%
			10.6%	

➡ 約7割の観光客が滞在時間4時間以下

2

持続的な観光成長の実現

観光地域として発展していくためには、「住んでよし、訪れてよし」の観光まちづくりは欠かせない要素となります。ひたちなか市においても、那珂湊おさかな市場周辺道路の渋滞など、オーバーツーリズムの兆候がみられ、市民生活への影響が課題となっています。また、近年のインバウンド増加や「体験」・「個人」型旅行の増加など、時代とともに変化する多様なニーズへの対応も課題となっています。

● 来訪者の総合満足度（令和6年度現地アンケート調査より・回答973人）



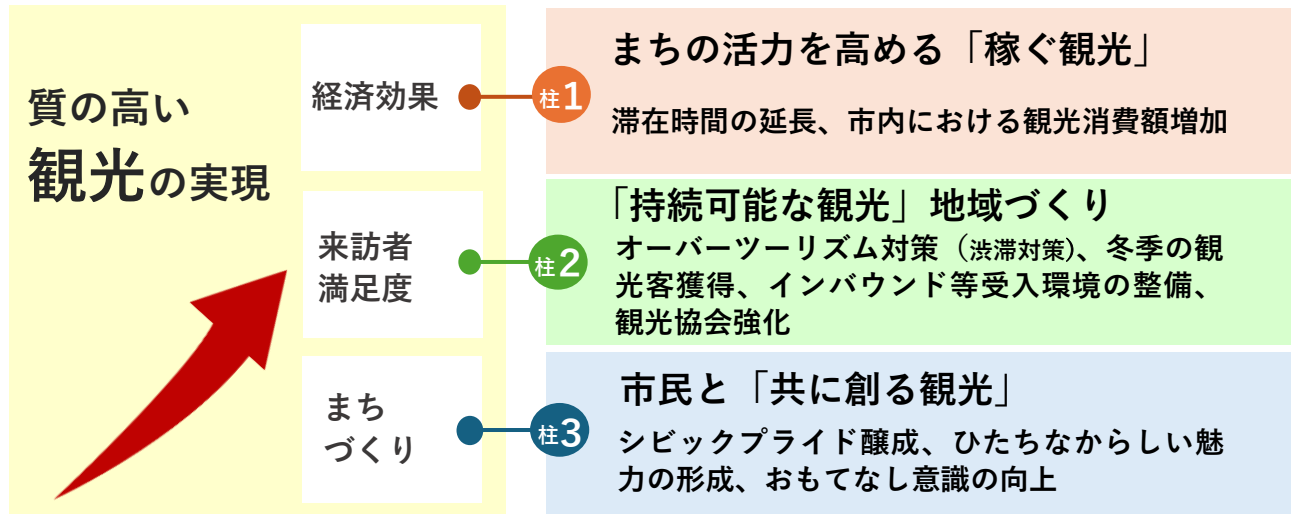
3

観光を担う人財との連携・育成

観光産業は「人」が支える産業です。様々な立場の人との連携による観光振興は、地域の活力を引き出し、より魅力的で住みよいまちづくりにつながります。ひたちなか市では近年、観光施設をはじめ、市民、企業、団体等と連携した取組を重視しており、これらは地域への誇り（シビックプライド）やおもてなしの心を育むことにもつながっています。一方で、観光に関する情報共有や意見交換の場づくり、新たな人材育成に関する取組が十分とは言えず、観光に関わる人材をどのように増やし、育て、次の世代につないでいくかが課題となっています。

施策の展開

経済効果、来訪者満足度、まちづくりの観点から「質の高い観光」の実現を目指すため、基本方針の3つの柱を設定しました。



計画の目標

取組の進捗状況を把握するため、成果や実施状況について指標を設定し、数値で可視化します。

「計画全体」の達成状況を図る指標

	現状値 (令和6年度)	目標値 (令和15年度)
観光入込客数	4 5 8 万人	5 3 0 万人
観光消費額（一人当たり）	7,644円	11,000円
来訪者満足度 70点以上をつけた割合で評価	88.4%	90%

本市ならではの魅力を戦略的に提案・発信することで、滞在時間の延長、体験や食を楽しむ機会、お土産品を買う機会、さらには宿泊者数の増加につながる施策に取り組みます。

基本施策1 回遊型観光の推進

- ①ひたちなか海浜鉄道を軸とした快適で楽しい回遊環境の整備
- ②公共交通機関やクルーズ船等と連携した市内観光の推進
- ③食や景観、ストーリー性を活かした巡りたくなる地域資源の磨き上げ
- ④ひたちなか・大洗エリアなど、市域を超えた広域観光の推進



国営ひたち海浜公園方面への延伸事業が進むひたちなか海浜鉄道(株)湊線

基本施策2 魅力ある観光コンテンツの磨き上げ・創出

- ①外からの視点を活かした観光資源の磨き上げ
- ②四季を通じて楽しめる季節ごとの魅力を活かした誘客戦略
- ③長く滞在したくなるコンテンツの充実や宿泊の促進
- ④イベント開催の支援及び誘致



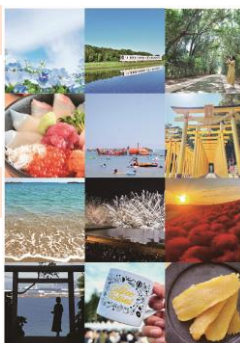
お土産品も取り扱う観光客の新たな立ち寄り地、JA直売所の「ここすな」

基本施策3 ひたちなか市ならではの食を楽しむ

- ①新鮮な魚介類やご当地グルメ、ロケーションを活かした食の展開
- ②SHIO_KAZE等お土産品、ほしいもをはじめとした特産品の販路拡大

基本施策4 戦略的な観光プロモーションの実践

- ①効果的な情報発信の展開
- ②知られざるひたちなかの魅力発信



SNS (Instagram、X等) を活用した情報発信。

●総フォロワー数
約4万
(R7.11時点)

基本施策5 インバウンド観光の推進

- ①ひたちなか市におけるインバウンド旅行者の現状把握と周知
- ②インバウンド旅行者への対応
- ③インバウンド旅行者の誘客・戦略

地域に配慮した観光のまちづくりを目指すとともに、多様なニーズを把握し、訪れる方の満足度を高める取組や観光地域経営視点での取組等を推進します。

基本施策6 受け入れ環境の充実

- ①快適で安全・安心・ユニバーサルな受け入れ環境整備
- ②観光におけるゲートウェイ機能の充実検討
- ③おもてなしとワクワク感を演出する景観整備



JR勝田駅の階段装飾によるおもてなし

基本施策7 マーケティングに基づく観光地域経営

- ①観光マーケティング調査の実施による継続的な現状把握
- ②観光で地域を支えるための観光DXの推進と経営力の強化



近年オープンした大型観光イチゴ農園「ICHIGO HOUSE、HITACHINAKA」

基本施策8 冬季コンテンツの拡充による新たな観光客の獲得

- ①地域資源を活かした冬の新たな魅力づくり
- ②ひたちなかで楽しむ“冬時間”の発信

観光に関わる人材を増やし、育て、次の世代につなぐため、市内外に「ひたちなか市」のファンを増やす取組や、人と人、人と地域がつながる仕組みをつくる施策に取り組めます。

基本施策9 観光におけるシビックプライドの醸成

- ①地域を誇りに思い観光を身近に感じる市民意識の醸成
- ②観光を自分事と捉えた基盤・仕組（プラットフォーム）づくり

基本施策10 観光を担う人財づくり

- ①イベント開催支援による人材育成
- ②学びと交流による、地域を知り支える観光人材育成
- ③市民の力を活かした観光地域づくりの推進

基本施策11 観光関連事業者の営業戦略とおもてなしの充実

- ①飲食店や観光事業者による、観光を意識した商売の在り方の研究
- ②新たなターゲット層へのアプローチ
- ③来訪者の満足度を高める各店舗・施設の「おもてなし」



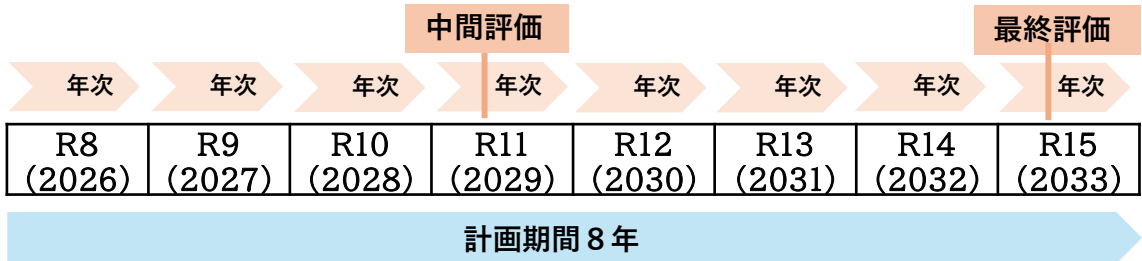
市民を対象とした
ネモフィラ・コキアの早朝鑑賞体験



阿字ヶ浦海岸を舞台としたマルシェ
「イバフォルニア・マーケット」

計画の評価

計画の進捗管理は、「年次評価」「中間評価」「最終評価」の3段階で行い、定期的な進捗の確認を行います。



評価種別	評価内容・役割
年次評価	<ul style="list-style-type: none"> ●茨城県観光客動態調査の観光入込客数による前年の評価を行い、増減の要因や傾向を分析する。
中間評価	<ul style="list-style-type: none"> ●各施策の実施状況について評価を行い、計画後半の実施する施策・事業の検討につなげる。 ●市内観光地でのアンケート調査等により、目標値の中間評価を行う。また、必要に応じて最終年の計画目標水準の見直しを行う。
最終評価	<ul style="list-style-type: none"> ●各施策の実施状況について評価を行う。 ●市内観光地点でのアンケート調査等により、目標値の最終評価を行う。 <p>⇒上記評価と、観光の基礎資料調査の結果を踏まえ次期計画の策定につなげる。</p>